

2023～2024年度クラブ目標

創立1986年

『みんなが楽しい ローター』



世界に希望を生み出そう

2023-24年度国際ロータリーテーマ

会長 佐藤 幸彦
幹事 村上 堅二



第1800回例会

令和6年4月4日 (12:30～13:30)

○ソング

- 君が代
- 奉仕の理想

○ビジター

- 福島南RCパスト会長 林克重様、富岡RC 西山由美子様
平成会特別養護老人ホームリアンヴェール白河 稲本貴文様

○スマイルBOX

- 福島南RC次年度地区財団委員長 林克重 (本日はお世話になります。)
- 富岡RC 西山由美子 (「女性の集い」楽しかったです。次回は富岡でお会いしましょう。)
- 村上堅二幹事 (とりあえず)
- 成井正之会員 (福島南RC、林克重様ようこそ。リアンヴェール稲本様卓話ありがとうございます。今日は結婚記念日祝いを頂き、ありがとうございました。)
- 大住由香里会員 (誕生日のお祝いありがとうございました。桜咲く季節に生まれた事嬉しく思っております。リアンヴェール稲本様、卓話ありがとうございます。)
- 金田昇会員 (リアンヴェール稲本様、卓話ありがとうございました。2530地区林財団副委員長ようこそ。)
- 永野文雄会員 (ゲストの林様お世話になります。卓話の稲本貴文様ありがとうございました。阿部会長代行ありがとうございました。)
- 関谷亮一会員 (誕生祝いありがとうございました。今月で80才になりました。皆様引き続きよろしくお願いたします。)

▶第1800回例会出席状況

(R6年4月4日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	55名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	69名
Ⓒ ①の出席者数	26名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	12名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	38名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	62
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	61.2%

本日のプログラム

■会長の時間

阿部克弘会長エレクト



本日も出席していただきましてありがとうございます。先程もSAAのほうからお話がありましたように、佐藤会長が都合により本日欠席でありますので、わたくしが代打として今日務めさせていただきますので、どうか最後までよろしくお願ひしたいと思います。それでは、まず初めにお客様をご紹介させていただきます。第2530地区ロータリー財団委員会補助金委員長、林様。林様におかれましては、わざわざ今日は福島の方からおいでいただきまして、福島南ロータリークラブに在籍しております。次年度、私のほうも地区の補助金を利用させていただいて事業を展開しようと思つて、林さんのほうにいろいろご相談をして盲導犬の応援プロジェクトということで、3月中に何とか補助金の申請の用紙を提出することが出来ました。すんなりと通つていただければ、次年度スムーズにプロジェクトができるようになる運びでありますので、何とか頑張つてやってまいりたいというふうにおもつておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひしたいと思います。続きまして、特別養護老人ホーム「リアンヴェール新白河」施設長、稲本貴文様。本日は後程、卓話を頂戴することになっておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。特別養護老人ホームといいますが、私も2001年から犬バカの阿部克弘ということで、ボランティア犬を特別養護老人ホームのほうに派遣をしまして施設の方に触れ合いをしていただく事業をずっとやっております。2001年7月に、県南保健福祉事務所の指導で動物がどのような効果を示すかということで、福島県で二番目に古い西郷村に「太陽の国」という所がございます、そこに「福島県さつき荘」という所がございます。そこで半年間、実証実験をした結果、施設の中の老人の方々が精神的にも肉体的にも改善効果が見られるという結果が出まして、そういうことが報告されております。そしてまた、県の事業が私どもの「県南地区動物愛護ボランティアの会」の私、会長をしておりますけれども、そこに引き継ぎをスムーズにできたということで、行政から民間の団体への継承もうまくできたということで、そのことを県のほうからも言われております。そういうところで、今日稲本様のほうからこれから介護施設もなかなか厳しい環境にあると伺っておりますので、是非その辺のところを皆さんにお聞かせ願ひえればと思つておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。今日はいろいろとセレモニーが目白押しでございますので、私の挨拶はこの辺にさせていただきますと思います。今日はよろしくお願ひいたします。

■幹事報告

村上堅二幹事

- 白河ユネスコ協会会長 小野利廣：ユネスコしらかわ（第30号）及び福島県のユネスコNo.42の送付について
- 白河赤十字奉仕団委員長 安澤莊一：令和6年度白河赤十字奉仕団総会の開催について
- 国際ロータリー日本事務局：環境月間リソースのご案内
- ガバナーエレクト早川啓介、地区研修・協議会実行委員長 大竹幹夫：国際ロータリー第2530地区2023-24年度地区研修・協議会開催のご案内／会長会開催のご案内
- 右近ガバナー事務所：いわき小名浜RCメールアドレス変更のお知らせ／普通寄付金、送金ご確認のお願い
- 生駒時計店：CATALOGUE2024-2025
- 原町中央ロータリークラブ会長 半澤秀幸：計報

■新入会員挨拶

中嶋一貴会員



皆さん、こんにちは。改めまして「東京海上日動」中嶋でございます。井上の後任となります。今週着任をいたしました。家はそのまま井上の部屋に入るんですけども、まだクリーニングを終わっていない状態です。今、実はここのホテルに10日くらいお世話になっている状況でございます、なかなか落ち着かない状況ではあるんですけど、今後とも是非よろしくお願ひいたします。どうもありがとうございます。

■来賓・来訪者の紹介

2023-24年度国際ロータリー第2530地区
ロータリー財団委員会 補助金委員会委員長
福島南ロータリークラブ

林克重様



お時間をいただき誠に申し訳ございません。中目さんもお見えになって、金田さん、本当に諸橋さんも含めて、今日は白河西ロータリークラブさんにお伺いすることを楽しみにしてました。実は次年度、諸橋さんに補助金の関係をいかにそのお金を集めるか。お金をうまく皆さんと共に喜んで出していただけるかというような、財団へ向けた資金の推進とポリオの推進ということで小委員長をお願いしております。今日は終わりましたらば、ゆっくり二人で膝つめで次年度の金田さんの年度に繋がるようなベースを作っていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

■各委員会報告

○雑誌広報渉外委員会

松永紀男委員長



皆さん、こんにちは。お手元にございますでしょうか。今日は内容が盛り沢山ということで、早めに済ませていただきたいと思います。まず、縦組みのほうからご覧ください。9ページ、「この人 訪ねて」西田勤さん。皆さんご存じ、桂文珍さんですね。内容は読んでいただきたいと思います。それで、実はこの桂文珍さんって私、大学時代の先生でして。私が通ってた大学の日本文学の教授をされておりました、当時。大変厳しい先生で、桂文珍が先生だということで履修者は多かったんですけども、おそらく当時では珍しい半分くらいしか単位出さないというような大変厳しい先生でした。当時はそんなに大学卒業するの今大変らしいですけど大変ではなくて、面白半分履修者が沢山おそらく何百人っていた中で、テストだとか出席だとかも大変厳しい先生で、みんなで取るんじゃなかったっていうふうな後悔をしたのすごく覚えています。ただこの先生すごく自分にも厳しい方で、大学の講義って大学の先生って割とさぼったりだとか、今日は休みだとかそういう事が多いんですけども、この先生は全く休むことなく、我々もついていくのがやっとだった記憶があって。授業の中で、俺飛行機乗りたいから飛行機の免許を取るって言い出したんですね、飛行機ってそう簡単に取れるもんじゃないのって話の中で、あれよあれよという間に大阪に当時、今でもあるのかな、八尾空港って空港があって、そこでどうも飛行機の免許を取れる講習コースがあるらしくて、通常だとアメリカだとかに行き取得するらしいんですけども、彼は国内で3年か4年か、そのくらいかけて飛行機の免許取ったということで。その後、学生を成績優秀者を乗せて旅行に連れて行ったりだとか、そういうことをしていただいていたそうです。わたくしごとなんですけど、これ見ながらこういう方はロータリーのメンバーでやられるんだなというのは、ちょっと感慨深く拝見させていただきました。次、横組みの14ページですね。「応援します!能登」ということで、能登半島地震の支援活動に関する各ロータリークラブの取り組みが活動として書かれています。皆さんご存じだと思いますけども、昨日ですね、台湾の花蓮のほうで結構大きな地震があってビルがぶっ倒れたりとかしておりますけども。私も息子が台湾に留学してまして、電話連絡で聞いたんですが、やっぱり台北のほうでもかなり揺れたということで心配しておったんですけども。ご存じかと思いますが、東日本大震災の時に台湾というのは全世界で一番金額的にも、人的にも補助をいただいた国であるということが認識されてると思うんですけども。今回も能登半島地震の義援金の25億円を、

4月1日に振込完了した翌日の今回地震だったということなんです。やはり、我々の中ではやっぱり台湾さんにすごくお世話になったという意識があるもんですから、こういう時こそやはり恩返しをしなくてはならないといえますか、お互い様というかそういう感覚で、いろんな活動が今後開始されることなんだろうなというふうには感じております。なお、こちらもご存じでもう行かれた方もいらっしゃるんですけど、今年の1月からですか、福島空港から台湾に直行便が今のところチャーター便ですけども出ています。この4月1日からは、個人シートも予約ができるようになったということで、チャーター便であることには変わらないんですけども、個人シートも予約ができるようになったということで、割と近いので石垣とか与那国あたりよりは手前にあるんですね。緯度でいうと、台湾という国は。ですから、割と気軽に今後交流結べればいいのかというふうには思っております。以前には、台南のスリオンロータリークラブと交流事業として台湾のほうにも我々行った事ありますので、こういった事を機会にまた人的な繋がりといえますか、絆が深まればいいのかと考えております。『ロータリーの友』を読みまして、ちょっと感じたことでした。私見になりましたが以上でございます。ありがとうございました。

○親睦委員会

鈴木浩一郎委員

【結婚記念日】

今井令雄名誉会員、矢田部錦四郎会員、成井正之会員、宮本多可夫会員、居川孝男会員、佐藤幸彦会長、櫻岡敏之会員、島田修一会員、瀬谷隆志会員、渡辺道直会員

【誕生日】

関谷亮一会員、宮本多可夫会員、鳴島三夫会員、十文字光伸会員、緑川直人会員、大住由香里会員、上杉謙太郎会員



■会計報告

寺島由和会員



皆様、こんにちは。会計からの報告ですが、今月は会費の請求月になっておりましたので、4月25日に皆様のご指定の口座から引き落としさせていただきますので、ご準備のほうをよろしくお願いいたします。あと直接お振込みいただく会員の皆様もご対応のほう、よ

ろしくお願いいたします。後日、ご案内お送りいたしますので、よろしく申し上げます。

■出席委員会

大住由香里委員長



皆さん、こんにちは。出席委員会の大住です。先日、4月1日に女性だけの会をしようということで、女性会を行いました。4月1日夕方6時から、北真船にあります「ブルーミングカフェ」で行われております。女性の会だったんですけれども、総勢18名ということで金田さんのほうからお声がかかりまして、石川さん、大竹さんが動いてくださり、女性らしい女性を作る女性らしい会というものをやらせていただいたような気がします。男性もしっかりいらっしゃったんですけれども、おしゃれなカフェでチェロ、ヴァイオリンの演奏を聴きながら、華を添えていただきながら、美味しい食事を囲んで女性らしく楽しく過ごさせていただきました。その中で、富岡ロータリークラブの西山様のほうをお呼びしまして卓話をいただきました。会員増強という形でお話いただいたんですけれども、会員増強というより一人一人が楽しんで、もちろん自分もなんですけれども、楽しんでいくことで会員が増えていくんだろうなというお話をいただきました。そして、西山さん自身も女性としてではなく、一人の女性として声を上げて男性の皆さんと一緒に活動しているという報告を受けて刺激を沢山受けたところであります。富岡町の今、会長さんであります藤田大さんという名前だけ覚えてしまったという、藤田さんと大さんということで藤田大さんという方がだいぶ活動されているということで、先月の『ロータリーの友』のほうにこのように出ているということなので、是非見てくださいということでご紹介を受けてきましたので、皆さんもどうぞご覧ください。二次会は「レッド・ラム」ほぼ全員で移動しまして、楽しい会話をしながら過ごしてきたところであります。また、一年に一度といわずに定期的にやりたいなという声が上がっておりますので、これを機に女性の力というものを発揮できるように活動できたらと思っております。

■本日のプログラム

○医療福祉関係の卓話講師紹介 大住由香里会員

皆さん、改めましてこんにちは。本日、医療福祉担当例会ということで、私のほうに卓話という形で上がってきたんですけれども。私がとても興味深く思っている、白河市立石に4日1日オープンされました「リアンヴェール新白河」の施設長様に卓話をお願いしてみました。特別養護老人ホームで最新の施設と最新の機械ということで、介護は機械にできるかなんて私は言ってる派ではあったんです

けれども、すいません。心を込めて機械を使っていくというところが、私にとってはすごく上手に私たちの体を守るためとか、精神的な負担を減らすために上手に使っていくことが最近の機械の中では必要になってきているのかなと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

■特別養護老人ホーム「リアンヴェール新白河」

施設長 稲本貴文様



皆様、こんにちは。本日、医療福祉月間というところで卓話を任されたというかお願いされた身で、特別養護老人ホーム「リアンヴェール新白河」の施設長をしております稲本と申します。何卒宜しくお願いいたします。本日、白河西ロータリークラブ様のほうでこういった貴重な機会いただいてありがとうございます。わたくしのほうでは今、スライドのほうに少し写させていただきますんですけど、介護業界現在の動向と将来性というところで卓話のほうをさせていただければと思います。まず、わたくしの自己紹介というところで、どこの何ぞやというところで、わたくし会津出身の者でして、もともと大学を卒業してから約20年間ずっとこの「社会福祉法人平成会」のところで入職して、介護職です。介護職からのスタートということで、介護福祉士の資格を持っておりますし、そういった介護業界全般のところ、通いのデイサービスだったりとかショートステイ、そして介護施設というところを経験させていただいてるところで、今の介護業界というところの問題だったり課題というところを少しお話をさせていただければと思います。まず、皆様のほうでもご存じのように世界の話をすると日本という国は世界の中で、今現在もそうですけどここ数年から今後の見通しについてもそうなんですけど、世界でナンバーワンの高齢化率を誇っているというか、高齢化率になってるとというのが日本でございます。令和5年度の時点のところでは29.1%。要は3人に1人が高齢者というところが、この日本の業界になっております。更に、昭和時代から含めると12人に1人、12人ということで、軒並み高齢化率というところは上がってきて、65歳の方一人を支えるその現役世代というところも少子高齢化ということもありますが、その中でどんどん高齢者を見る人材というか、人的なところが課題になっているというところが今浮き彫りになってるところでございまして。皆さんもニュースとかでお聞きになられてるところあると思うんですけど、介護業界の一番の問題というところは人材不足。人が足りないというところが問題になっております。じゃあ、人材不足って何故なのかというところで考えると、介護業界のところによく言われるのが、介護の仕事というところが4Kというふうに呼ばれてる時代がございました。今現在も呼

ばれてるところもあるかと思いますが。きつい、汚い、危険、そして給料が低いということが軒並み世間ではこう言われてるところがありました。ですけれども、そもそも根本的なところの問題、介護業界の問題は、実はその4Kとか、介護の仕事がきついからとかではなくて、後期高齢者の推移というか要介護認定を受けている方というところがもう増えすぎた。利用者さんが増えすぎたというところが、まず大前提でございます。数字的なところ記載のところ見ていただければと思うんですけども、介護保険サービスという介護保険の制度自体が始まったのが2000年、今から24年前という形になります。その段階では要介護認定という方、介護を受けられる要介護認定を受けてる方は240万人。そして、今現在2021年の段階でいうと670万人、約2.8倍に増えております。ここまでは、まだなだらかなスピード感ずっと推移としては上昇してる形ではあったんですけど、こちらも世間的に言われている2025年問題。高齢化率がまた上がっていくというところで、更には将来的なところ見た時に、一番大きな問題がこの2040年という今から15年後の話にはなりますけど、そういったところで要介護認定者というのが約956万人。今から更に300万人増えるというような状況に、この日本は今状況としてはなっているというところがまず大前提でございます。それに踏まえて、介護職員のほうが足りない。人材不足というところに関しては、2000年介護保険が始まった時は54万人が介護職員、介護職として働いているという人間がおりましたけども、2021年の段階では210万人。更には、956万人をみるという2040年に関しては、介護職員の数がまだ全然足りてません。約30万人以上が不足しているというところが課題になっているというのが、今の介護業界の一番の課題だというふうに覚えていただければなというところがございます。その上で、その人材不足を解消するというという介護業界全般の職種の方、施設の方、それを運営する法人

というところがどんなことに取り組んでるかというところ、少しヒューチャーしてお話させていただければと思うんですけど、4つにちょっと区切らせていただいています。まず一つは、少子高齢化。高齢者を見る職員が少ないというところで、どこに頼るかというところで、こちらもニュースとかで結構出てくると思うんですけど、外国人労働者の雇用。あとは、施設独自、法人とかという所でも処遇を改善する。国自体の政策でもあるんですけど、そういった処遇改善っていうところ。三つ目としては、先程大住さんもお話いただいたようにロボットに頼るというわけではないですけど、職員さんがいかに介護というところの負担を低減することをして、ICT化を進める。ロボットを使ったりとか、そういったところを活用するというところが対策の一つとして挙げております。最後は、うちのほうの取り組みのところでもあるんですけど、当施設の取り組みでもあるんですけど働き方改革。介護施設としての働く職員さんの働き方を考えてくというところで、4つのカテゴリーに分けさせていただいて説明をさせていただければと思います。まず、外国人労働者の雇用というところに関しましては、本当に2020年今から4年前のところから急激に外国人の労働者の方、介護施設で働くという方がすごく沢山増えております。2020年から約3年でいうところではあるんですけど、莫大に人が増えてるというところがグラフ見ていただくとわかると思います。主にやはり東南アジア系の所でベトナム国籍の方、インドネシア国籍の方、ミャンマーの方というところが、日本で介護施設に働いている外国人の労働者の方では特に多い外国籍の方の国になります。というのも、やはり親日派、日本に馴染みがある方という外国籍の方というところからお仕事をしていただいているというところがあって、本当に介護職員さん、介護に携わるというところの職員としての知識だけでなくコミュニケーションの能力だったりとか、そういったところにも長けてる人達が今、働



いていただいています。なので、日本人が駄目というわけではないんですけど、日本人だけじゃなくてそういった外国籍の方とかでもお仕事をするような形で今、介護業界というところは動いてるというのが一つ人材の雇用としてあります。続いて、処遇改善というところでこちらもニュースとかでお聞きになられてる方もいらっしゃると思うんですけど、年々賃金の処遇の改善というところで、賃金がずっと毎年介護職員のほうは上がり続けてます。それに関しても施設に応じて、うちでいうと特別養護老人ホームというのは結構高く給与というか加算だったりとか、そういったとこいいただいて給与を上げていくというところのスパンも高いんですけども。直近でいうと2024年2月に、これも6千円今の内閣のほうで打ち出されてるところで6千円の賃上げアップというところで、そちらも給与のほうもアップしてくというところで処遇を改善されているというところの動向がございます。それを目的としては、あくまでこう職員さんの定着率、離職に繋がらないようにという形で給与も上げていくところも計画として今後も更なる賃上げというところも上げていく計画というところ国の政策としてもありますので。職員、特に介護職員のそういったところの処遇を上げていくという動向にもなっております。三つ目、こちらがICT化ということで、様々な今まで職員の手で行っていた業務というところ、こういったロボット、ベットセンサーを付けてみて見守りというところもすべて、監視ではないですけどそういった形で職員さんの目が届かないところもロボットだったり、そういうシステムを使ってというところの世の中に今切り替わっております。当施設のほうでもベットセンサーのほうも入れさせていただいて、通常でいうとナースコールという病院とかでもあるようなそういった形で呼び出させていただいてお部屋に行くというところじゃなくて、センサーが反応したお部屋に職員さんが出向くような形。少しでも手間が省けるような形というところで導入をさせていただいています。最後、働き方改革。こちらの工夫もあるんですけども、当施設のほうの「リアンヴェール新白河」のほうでも採用させていただいてるんですけど、通常は週5日の一日8時間という形で業務を行っているところが主流かと思うんですけど。介護職だけじゃなくて、うちのほうは全職種に関してですけど、週休三日制で一日10時間勤務というところを導入させていただいています。一番大きいのはやはりその休日数が多い。年間休日数でいうと、大体160日休みという形を取らせていただいています。ちょっとグラフのところ見づらいかもしれないですけど、一日の中で介護職員さんが1人で勤務するという時間があると、どうしても介護職員さんの負担が多くなるというところがあって、実際黄色い棒グラフというかその間に水色の部分があるんですけど、職員さんが唯一2人勤務になる時間、入所施設でいうと2人

勤務になる時間というのは2時間しかないというのが今の現状だったりします。それを一日10時間勤務にすることによって、ピンクにグラフのように職員が2人以上の勤務体制を作れるというところで職員の負担を軽減するというような取り組み、働き方というところも変えていたりというところが今の現状として多くの介護施設のほうで今後の育成というところでも取り入れながら、介護職員さんがいかに離職に繋がらず、辞めずに働いていけるかというところの取り組みを今の業界としても四苦八苦してる状況ですけども、このような形で職員さんの確保だったりとか、そういったところで動いてるというのが今の介護業界の情勢かと思えます。本当に端的なところでお話してるところではありますけど、介護、人が足りないというところではあるんですけど、様々な工夫をしながら介護するご利用者様の為に職員の確保というところは動いてるのが現状になります。当施設のほう、白河消防署の上のほうに「リアンヴェール新白河」という形でございますので、もしご見学も兼ねて、先日内覧会のほうも行わせていただいで、来場者のほう三日間で800名近く来ていただいたところがございますので。もう4月から開設させていただいて、お客さんのほうも受け入れさせていただいていますので。もしよろしければ見学も兼ねて足を運んでいただければと思います。わたくしのほうからつたない話で申し訳ないんですけど、卓話のほう以上とさせていただきます。ご清聴いただいでありがとうございます。



2F 地域交流ホール
パステルカラー照明が印象的な明るく開放的な空間。



ブロック遊び場(地域交流ホール)
動物のブロックが設置されたユニークな壁面。